

算数科

昨年度の取り組みと成果と課題

【 成果 】

- ・習熟度別少人数学習を進めるために、レディネステストを実施し、クラス分けをした。児童の学習状況に応じて指導したことから、一人一人の学習の状況が把握しやすく、きめ細かい指導ができた。
- ・一人一台のクロームブックを活用し、個々の課題、ペースに応じた問題に取り組むことができた。
- ・放課後補習の継続的な個別指導の積み重ねで、基本的な計算の力を徐々に身に付けることができた。また、放課後補習の時間を増やしたことでより一人一人に適した指導ができた。

【 課題 】

- ・記述式問題に対しての正答率が低い傾向がある。自分の考えたことを適切に表現する場面を授業で展開していくことが必要である。
- ・低学年では時刻と時間の学習に課題がある。学校生活や日常生活に効果的に結びつける働きかけをしたり、興味・関心を引き出す学習を組み立てたりする必要がある。
- ・学習した内容を活用する力に課題がある。学習した内容を実生活に生かすような場面の問題を設定する必要がある。

大田区学習効果測定の結果分析 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第4学年	≒	△	≒
第5学年	△	≒	≒
第6学年	≒	≒	≒

学習状況の分析

○知識・技能

- ・4、5年生は目標値に達しており、5年生に関しては全国平均正答率を大きく上回っている。領域別に分析すると、4年生では「割り算」の問題、5年生では「角の大きさ」、6年生では「割合」の問題の正答率が他の領域より低い傾向にある。

○思考・判断・表現

- ・5年生は目標値に達しており、全国平均正答率を大きく上回っている。問題別に分析してみると、4年生では「□を使った式」6年生では「立体と体積」「整数のなかま分け」「データの活用」の問題の正答率が、他の領域より低い傾向にある。

○主体的に取り組む態度

- ・全学年を通して、プリントやドリルパークについては、意欲的に取り組んでいる。基礎基本的な計算問題に関しては意欲が高い傾向だが、文章問題や発展問題に対して苦手意識を感じている児童が多い。

授業改善のポイント（観点別）

【 低学年 】

○知識・技能

- ・基礎的な計算力を身に付けられるようにするために、朝学習の時間を活用し、学習の状況に応じた問題に取り組む。
- ・長さやかさなどの量感が必要な学習に関しては、算数だけではなく、生活科など他教科等と関連させたり、操作活動や体験活動を取り入れたりして実生活の中で生かせるようにしていく。また、時計の読み方や考え方も日常的に取り組み、定着を図っていく。

○思考・判断・表現

- ・文章問題などで演算決定をする際には書かれているキーワードや図やテープ図などから考えられるようにする。
- ・説明する際には、具体物や半具体物を操作したり、オクリンクプラスを活用して友達に伝わりやすい表現活動を取り入れたりする。

○主体的に取り組む態度

- ・導入や問題の提示する際は、具体物や映像などを使って、学習への興味を引き出す。
- ・学習の展開の中に数学的活動を取り入れ、実生活の中にある算数に目を向け、主体的に学習する態度を育成する。

【 中学年 】

○知識・技能

- ・基礎的な計算力をさらに向上させるために、個の学習状況に応じた計算問題に朝学習の時間を活用して取り組む。また、授業内で、九九や割り算などの計算問題に定期的に取り組む、計算力を高めていく。
- ・時ごとと時間に関して、授業の中で時計に関する問題を適宜、復習することで定着を図る。
- ・数の表し方や相対的な大きさの見取りに関しては数直線などを利用して、視覚的に数の大きさ捉えられるようにする。児童の実態に応じて具体物も用いて指導し、具体的なイメージをもたせるようにする。また、数直線の読み方も低学年の既習事項を復習し、定着を図っていく。

○思考・判断・表現

- ・文章題を線分図で表す活動を取り入れ、問題場面の把握、立式ができるようにする。
- ・高学年でも活用できる能力を身に付けられるように「もとにする大きさ」「1と見る大きさ」などの用語をおさえ、線分図を活用した授業を展開する。
- ・「□を使った式」の学習は、四則計算問題、文章問題などの反復練習を通して定着を図る。

○主体的に取り組む態度

- ・個別最適化学習に向けて、一人一台タブレット端末やプリント等を活用し児童が自分に適した問題に取り組むことができる授業展開を考える。
- ・学習の振り返りを通して、児童の理解度、授業への満足度などを把握し指導の改善を行う。
- ・学習したことを生活の中でどのような場で生かすことができるかを考える時間を設け、学習と生活・将来へのつながりと考えさせ、意欲的に取り組む姿勢を育む。

【 高学年 】

○知識・技能

- ・偶数や奇数、倍数や約数の理解を深めるために、数直線やベン図を使うことで視覚的に数を捉えさせる。
- ・小数や分数のわり算などの四則計算については、計算の仕方が十分身に付くように、一人一台タブレット端末やプリント等を活用して学習状況に応じた計算問題に取り組ませる。
- ・作図の問題については、映像資料を用いて指導し、図形（平行四辺形やひし形）の描き方を十分に理解させる。また、自分で図形を描く機会を十分に確保する。
- ・面積や体積の求め方については、具体的な操作活動やICTを活用することで、形に関する感覚を養い理解を深める。
- ・変数を表す□や○について、表にまとめ、数の変化を考察する活動を重視する。

○思考・判断・表現

- ・数量関係をつかみやすくするために、数直線を書く習慣をつけさせ、「もとにする大きさ」「1と見る大きさ」などの用語を使って、自分の考えを表現させる。
- ・「図形」では、自分で考えたり、グループで話し合いながら描いたりして、多様な考えを身に付けさせる。
- ・「小数の計算（文章問題）」では、数直線を活用して被乗数と積の関係を捉えたり、いくつもの式を実際に計算して数値を比べたりすることで、乗数と積の関係を理解させる。

○主体的に取り組む態度

- ・個別最適化学習を図るため、自分でめあてを設定し、ICT等を活用して、自ら学ぶ姿の育成を図る。
- ・日常生活に生かせるような必要感のある学習問題を提示し、意欲的に問題解決に取り組めるようにする。